実 績 報 告

診 療 部

- 医　　局
- 歯　　科
- 薬　剤　科
- 放 射 線 科
- 臨 床 検 査 科
- 栄　養　科
- 心　理　室
- 地　域　課
- デ イ ケ ア 科
- 作 業 療 法 科

診　療　部

診療部は、医局、歯科、薬剤科、放射線科、臨床検査科、作業療法科、栄養科、地域課、心理室、デイケア科で構成されている。

平成29年度より診療部会議を新設した。年２回開催し、各部門の課題およびその進捗状況について話し合い、課題共有に有効な場となっている。

診療部長　豊岡　和彦

【部署名】

医局

【職員数】

13名（精神科医10名、内科医１名、事務員２名）

＊平成29年度は、12月に、後藤雅博前院長の退職があった。後藤前院長は、平成13年より当院に週１日勤務され、SSTや心理教育の導入、病床削減と新病院の設立、共同住居の立ち上げ、地域支援体制の強化、急性期治療病棟の開設等々、平成24年度からは当院の院長に就任され、電子カルテの導入、救急入院料病棟の開設等、当院の進歩・発展に多大な貢献をされた。後藤前院長退職後、その穴を埋めるべく、職員の協力、団結が必要なのは言うまでもない。

また、平成27年12月から休職中であった児玉先生が４月に、平田先生も平成29年度末で退職となった。平田先生の在職中は、外来新患や職場のストレスチェックによる高ストレス者の面接を受けて頂いた。

後藤前院長退職後は澁谷医長が院長代行を務め、平成30年度より正式に院長に就任することになった。

【業務内容】

外来診療および入院診療が主な業務である。救急患者の受け入れ、措置入院患者の受け入れ、時間外診療を積極的に行った。

［精神科救急］

平成29年度は、新潟県の精神科救急システムにおいて、月・水・木の夜間のほぼ全て、さらに休日昼間・休日夜間の救急を輪番で担当した。実際には、夜間は平日・休日合わせて年間157日（前年度157日）、休日昼間は年間16日（同16日）を担当した。

その中で、電話対応は1038件（前年度777件）、診察129件（同128件）、入院45件（同55件）であった。

［クリニック業務］

澁谷院長代行、川嶋副院長、豊岡診療部長、熊田医長、橋野医長がとよさかクリニックに出張し、稲月医師と共に診療にあたった。病院業務と並行して、クリニックを運営していくことが困難となり、平成30年４月末日で同院は閉院することになった。

［地域精神保健への協力］

措置鑑定２件（前年度８件）、措置入院26件（同30件）、応急入院３件（同２件）、また県や市の精神保健に関する各種会議、思春期相談事業、精神医療審査会、簡易鑑定、医療観察法の判定医業務、認知症サポート医、産業医業務などの協力を行っている。

平成29年度より、新潟市北区において、特定健診にあわせて、もの忘れ検診が開始された。当院は専門病院として、要精査とされた人の診察を行った。

［会議・委員会］

医局連絡会議；基本的に第１と第３月曜日、午後４時半から、30分～１時間で開催されている。主な参加者は、医局、事務部長、看護部長、その他必要に応じて参加する各部署の担当者である。同会議では、病院の診療に関わる様々な議題について報告、議論、提案がなされた。

その他、病院の各種会議・委員会には、全体会議；医局医師全員、経営委員会；鈴木理事長、澁谷院長代行（平成30年１月より）、後藤前院長（平成29年11月まで）、川嶋副院長、医療安全対策委員会・リスクマネジャー委員会；川嶋副院長、院内感染防止対策委員会；澁谷院長代行（平成30年１月より）、後藤前院長（平成29年12月まで）、鈴木理事長、褥瘡対策委員会；鈴木理事長、NST委員会；鈴木理事長、行動制限最小化委員会；橋野医長、医療観察法運営委員会；澁谷院長代行（平成30年１月より）、後藤前院長（平成29年12月まで）、衛生委員会；澁谷院長代行（平成30年１月より）、後藤前院長（平成29年12月まで）、薬事委員会；鈴木理事長、澁谷院長代行（平成30年１月より）、後藤前院長（平成29年12月まで）、豊岡診療部長、病院食検討委員会；鈴木理事長、後藤前院長（平成29年12月まで）、退院支援委員会；後藤前院長（平成29年12月まで）、業務改善委員会；豊岡診療部長、未収金対策委員会；鈴木理事長、後藤前院長（平成29年12月まで）、

デイケア科運営委員会；後藤前院長（平成29年12月まで）、診療部会議；豊岡診療部長、事後審査委員会；川嶋副院長が参加した。

【今後の展望】

平成29年度も、医局は、入院患者の受け入れ、措置入院患者の受け入れ、ベッドコントロール等に追われる多忙な１年であった。今年度も、これらの業務を維持し、新潟県北圏域の基幹病院としての役割を果たしていく予定である。

文 責　川嶋　義章

平成29年度入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均入院患者数	271.1	272.5	269.3	268.8	267.5	265.7	263.2	246.2	240.0	254.2	263.0	261.0	261.9
新入院患者数	48	36	46	50	36	49	39	37	51	46	41	44	523
救急病棟入院者数	34	24	25	35	25	26	26	26	38	33	33	32	357
措置入院者数	3	1	2	5	1	3	3	1	2	1	2	2	26
応急入院者数								1		1		1	3

平成29年度時間外診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来のみ	9	14	16	15	15	13	11	8	10	10	12	10	143
入院受入れ	9	7	5	9	3	8	5	7	6	7	3	11	80

平成28年度入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均入院患者数	256	259	277	267	266	267	270	274	266	265	276	276	268.3
新入院患者数	41	54	63	43	50	54	53	36	38	53	45	39	569
救急病棟入院者数	32	40	36	28	29	35	37	23	28	37	28	25	378
措置入院者数	2	3	3	4	2	2	2	4	3	1	3	1	30

平成28年度時間外診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来のみ	12	11	12	9	7	9	6	17	21	16	11	6	137
入院受入れ	13	7	9	8	7	12	13	7	7	9	10	5	107

【部署名】

歯科

【職員数】

７名（歯科医師６：新潟大学医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野より派遣、事務員１名）

【業務内容】

病棟及び外来の患者を中心に、以下の歯科診察を行っている。

・虫歯治療、冠・義歯等の製作
・歯周病治療及びメインテナンス（定期的な検査、専門的清掃による口腔管理）治療
・歯科疾患予防検診・処置・口腔ケア
・特別養護老人ホーム「なぎさの里」への訪問歯科診療

入院患者に関しては、精神科主治医・看護師・病棟介護スタッフらと連携することにより、治療内容やメインテナンスの期間等、患者の状態に合わせた治療を提供している。

なぎさの里への訪問診療についても、看護師及び介護スタッフと連携して、綿密な治療計画のもと、QOLに配慮した口腔ケア・歯科診療を行っている。

デイケア科、指定障害福祉サービス事業所（いなほ園）のメンバーを対象に口腔ケアの必要性、予防歯科の大切さについての講演や口腔清掃指導を行っている。

デイケア科において無料歯科検診、ブラッシング指導を実施している

【今後の展望】

口腔内の衛生状態を良好に保つことは、誤嚥性肺炎の予防など、さまざまな疾患に影響を与えることが報告されている。院内にある歯科という特長・意義をふまえ、歯科疾患の予防や治療にとどまらず、訪問診療や口腔ケアを積極的に行うことで、全身の健康とQOLの向上に貢献する。

文 責　伊藤きみ子

【実　績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療延べ人数	141	137	151	149	172	153	156	155	140	124	129	156

薬剤科

【部署名】
薬剤科

【職員数】
4名（薬剤師3名　事務員1名）

【業務内容】
平成20年11月の外来処方箋の院外完全移行により外来患者の調剤が無くなり、現在薬剤科における主な業務の中心は院内処方箋に基づく調剤と、病棟における薬剤管理指導業務となっている。特に平成25年以降は電子カルテ導入により薬物治療情報が院内において一元化されたため、各部署からの薬剤情報への問い合わせ等も多々ある。その他、心理教育での病棟及び家族会での薬剤啓蒙講義、各病棟で行われるケースカンファレンスへの参加、各種委員会（医療安全対策委員会、リスクマネージャー委員会、院内感染防止対策委員会、褥瘡対策委員会、NST委員会、教育委員会等）への参加とチーム医療関連の業務も近年多くなってきている。例年全国規模で行われる精神科における処方調査（精神科臨床薬学研究会により行われる調査）にも参加しており当院での薬物治療の処方状況把握、及び全国との比較を行い、医師にフィードバックしている。それに伴い薬剤科主導での抗精神病薬スイッチングも各職種と連携しながら行っており一定の成果を挙げている。

【今後の展望】
精神科救急病棟の開設により様々な患者の入院が想定される中、薬剤科としてはそれに伴う患者への薬学的関わり（持参薬管理における相互作用チェック、服薬指導等による服薬アドヒアランス向上等）を行うことで、スムーズな治療、退院へと結び付けられるよう各専門職と協働しながら、更には薬剤師独自の服薬指導等で得た情報を医師に還元することにより、安全で適切な薬物治療がなされるよう努力していきたい。また新しい取り組みとして今後頓服薬の適正使用を課題に置き、頓服薬使用が多い患者に対し、薬物以外のアプローチが考えられないかを看護等と共に考え取り組んでいきたい。

文 責　田中　光生

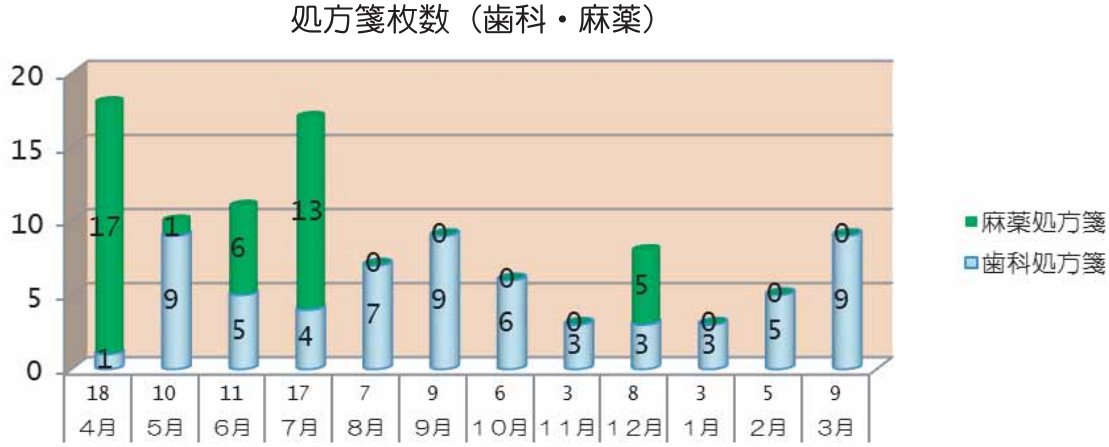
【実　績】

①薬剤管理指導料件数

（薬剤管理指導料２・薬剤管理指導料３・退院時薬剤情報管理指導料の合計件数）

②処方箋枚数（定期・臨時・注射処方箋）

③処方箋枚数（歯科・麻薬処方箋）



放射線科

【部署名】
放射線科

【職員数】
２名（診療放射線技師２名）

【業務内容】
放射線科は他の医療機関と同様に、外来患者および各病棟入院患者に対して担当医の指示により一般撮影とＣＴ検査を行なっている。一般撮影は胸部疾患等の確認と経鼻的経管栄養補給のために挿入した胃チューブの位置確認の胸部単純撮影、腹部膨満・腹痛の原因検索の腹部単純撮影、転倒・打撲等に因る骨・関節の骨折等の確認の全身骨単純撮影が主である。ＣＴ検査は造影剤の使用が出来ないために全てが単純ＣＴ検査であり、頭部領域は精神疾患の起因となる頭蓋内器質的疾患の検索、頭部外傷に伴う頭蓋内病変の検索、胸部領域は肺疾患等の検索と経過観察、腹部領域は腹部疾患等の起因となる腹部臓器の異常の検索と経過観察が主である。その他に脊椎（胸椎～仙椎領域）の単純ＣＴ検査、死亡時画像診断のために頭部から大腿部までの広範囲領域の単純ＣＴ検査を行なっている。

画像データの管理等として、撮影した画像は検像後にＰＡＣＳに転送し、担当医師のモニタ読影の補助をしている。ＣＴ検査の画像も適宜ＰＡＣＳに転送し、当該部位の画像の読影補助と外部の読影専門機関に必要な画像データを送信、読影依頼をしている。後日に届いた画像診断専門医による読影結果のレポートはＰＡＣＳ内に保存管理し、読影結果の内容を電子カルテにＣＴ検査の所見として転記している。なお、ＰＡＣＳ内の画像データは定期的に外付ＨＤ内にバックアップを実施しているが、画像検査の特に頭部ＣＴ検査数が増加しており、画像データ量が大幅に増えている。

他医療機関との連携で受診依頼または入院依頼があり、それに伴う当該患者の診療画像のメディアでのやり取りもあり、当院の画像データをＰＤＩデータとしてＰＡＣＳからメディアに出力、または他院からのメディア内に記録されている画像データのＰＡＣＳへの保存をしている。年々、その画像データ数も多くなってきている。

日常業務における医療機器（Ｘ線機器とＰＡＣＳ）の始業時点検を毎朝実施し、立案した保守点検計画に基づいて関係する医療機器メーカーの担当者によりＣＴ装置は年２回、一般撮影装置とＰＡＣＳは１回実施している。なお、歯科診療室のＸ線機器の始業点検は歯科診療室担当者に委ねている。各医療機器は何らトラブルもなく経過している。

Ｘ線機器の保守点検と同時に法令に定められている放射線管理区域境界における漏えいＸ線量測定を所定の方法で２回行なっている。歯科診療室のＸ線撮影室を含めて、全ての測定場所における漏えいＸ線は認められていない。

【今後の展望】
平成23年12月から稼働しているＰＡＣＳ内の画像データ保存容量が上限になってきているために、次年度には保存容量が現在の機種の８倍の容量を有する上機種に更新する。それによって、今後定期的にフォローしていく患者の画像検査において発生する画像データを十分に保存可能となる。さらに一般撮影の画像読み取り器（ＣＲ装置）の保守契約を締結することで、全ての医療機器の保守管理に徹していく。

文責　石田　　均

【実　績】

〈画像検査数〉

①一般撮影回数

撮影部位	回数	
	平成29年度	平成28年度
胸部	650	695
胸部:胃チューブ確認	163	122
頚部	0	0
腹部	56	31
全身骨・関節	153	73
総数	1,022	921

②ＣＴ検査数

検査部位		件数	
		平成29年度	平成28年度
頭部	外来	158	168
	病棟	389	443
胸部	外来	4	3
	病棟	78	73
全腹部		43	41
頭頚部		3	2
上肢		0	1
その他（Ai）*		8	1
総数		683	732

その他(Ai)：死亡時画像診断

〈医療機器保守点検および漏えいＸ線量測定〉

医用機器	保守点検実施月日	漏えいＸ線量測定月日
一般撮影装置	平成29年10月17日	①平成29年８月30日 ②平成30年２月19日
全身ＣＴ装置	①平成29年８月21日 ②平成30年２月19日	
Ｃ　Ｒ　装　置	—	
Ｐ　Ａ　Ｃ　Ｓ	平成29年11月21日	
歯科撮影装置		①平成29年11月６日 ②平成30年５月21日

〈医用画像の入出力〉

診療画像	平成29年度	平成28年度
他医療機関への提供	49	35
他医療機関からの提供	31	47

臨床検査科

【部署名】
臨床検査科

【職員数】
3名（臨床検査技師3名）

【業務内容】
全入院患者及び外来受診者の臨床検査（検体検査・生理検査等）を実施している。検体検査では入院患者に対し原則毎月1回の定期採血（肝機能・腎機能・糖脂質・血球算定等）を実施し身体的変化をフォローしている。また定期採血に合わせて向精神薬の薬剤血中濃度も同時に測定し薬剤治療における適切な治療域管理を行っている。外来受診者においても年1回の採血を原則とし、病態及び服薬状況に合わせて検査頻度を変え、身体的状況の把握や精神薬治療域管理に努めている。

生理検査では主に向精神病薬副作用のモニタリングとして心電図検査を定期的に行っており、各病棟（急性期・身体合併等）の形態に合わせて検査頻度を設定し薬剤副作用及び心疾患の早期発見に努めている。脳波検査は医師の指示を受けて個別に実施している。外来受診者においても入院患者と同様に検査を実施している。

職員健診は年2回実施しており、春の健診は全職員を対象に、秋の健診は夜勤業務従事者を対象として主に採血及び心電図検査を実施している。

検査業務以外の活動としては感染症発生状況及び薬剤耐性菌検出状況の把握、並びに感染症発生時のICTによる感染防止対策への参加、合わせて組織全体への院内発生状況の周知を行っている。

その他、主に看護師を対象に検査技師不在時に使用されるPOCTの使用方法についての勉強会を主催している。

【今後の展望】
年々、精神症状の問題だけでなく身体合併症を伴う方や多種多様な病態の患者が増加し、検査に対する必要性が増していると感じられる。それらを踏まえ更なる病院の機能強化と今後の医療業界の進歩に合わせる為、絶えず新しい情報を収集し、検査科としての患者サービスの向上と将来性のあるシステム作りを行い臨床に貢献していきたい。

文責　村木　憲一

【実　績】

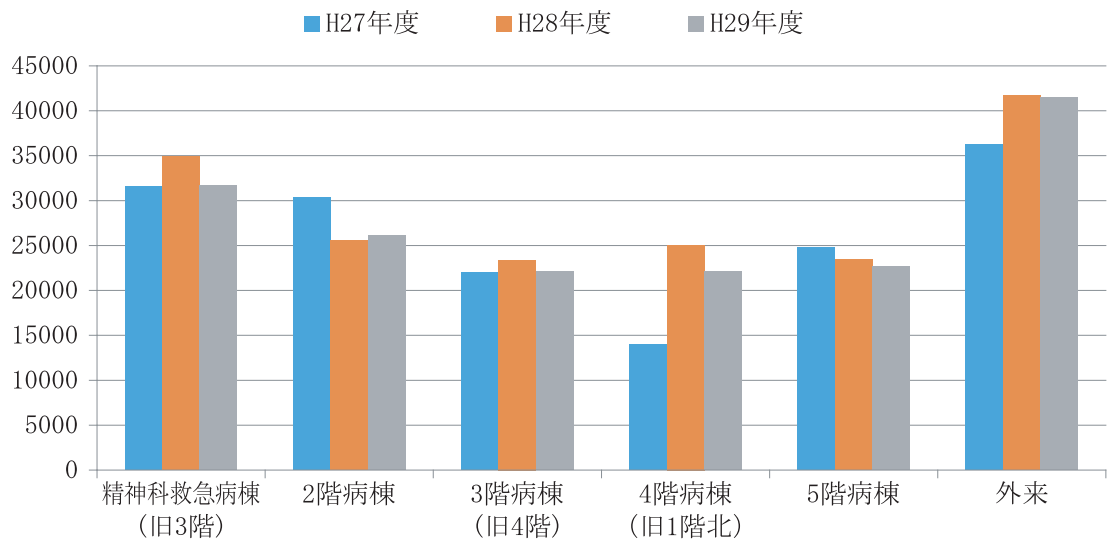
検体検査実施実績一覧

	平成28年度		平成29年度
精神科救急病棟	34,930項目（内TDM127件）	精神科救急病棟	31,716項目（内TDM214件）
2階病棟	25,605項目（内TDM174件）	2階病棟	26,133項目（内TDM132件）
3階病棟	23,400項目（内TDM296件）	3階病棟	22,121項目（内TDM258件）
4階病棟	25,058項目（内TDM139件）	4階病棟	22,141項目（内TDM180件）
5階病棟	23,458項目（内TDM236件）	5階病棟	22,631項目（内TDM225件）
外来	41,677項目（内TDM349件）	外来	41,472項目（内TDM349件）
職員健診	4,079項目	職員検診	3,824項目
合計	178,207項目（内TDM1,321件）	合計	170,038項目（内TDM1,358件）

H29年度生理検査実施実績一覧

	心電図検査	脳波検査
精神科救急病棟	317件	6件
2階病棟	214件	0件
3階病棟	136件	1件
4階病棟	160件	0件
5階病棟	147件	1件
外来	633件	5件
職員健診	128件	0件
合計	1,735件	13件

検体検査実績



栄養科

【部署名】

栄養科

【職員数】

2名（管理栄養士2名）

【業務内容】

全病棟の患者を対象に栄養管理計画書を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が共同で作成している。特別な栄養管理が必要とされた患者には栄養計画を掲示、定期的にモニタリングを行い適切であるか評価している。毎月ＢＭＩを算出し、入院患者の低体重や肥満者の比率を出している。低体重や低Alb値や肥満の場合、病棟や患者名、前月のＢＭＩを記載し、低栄養患者や肥満患者が毎月何名いるか一覧表を作成している。低栄養の早期発見として半年で5kg以上体重が減少した患者の一覧表も月ごとに栄養科で作成している。毎月のＮＳＴ委員会に参加し、低栄養・肥満患者の一覧表はＮＳＴ委員会の参考資料として使われ、他職種との情報共有に活用している。

栄養指導指示箋に基づき、入院・外来患者に栄養指導を行っており、心理教育のなかで栄養に関する集団教育を実施している。デイケアでは生活習慣病を予防する内容等の講義を行っている。また、毎月「みなみはま栄養たより」を作成し、健康や栄養に関する情報提供をしている。

検食簿や毎月の残菜調査結果を参照し、給与栄養目標量に基づいた献立を作成している。嗜好調査や病院食検討委員会で挙げられた意見を基に行事食やイベント食のほか、地産地消メニューを提供している。年間12回ランチビュッフェ、精神科救急病棟は選択メニューを行い、食事を通して患者の選択が広がるよう立案している。昼食時には病棟訪問を行い、患者の摂食状況を確認している。

委託会社と協力し、食材料管理・衛生管理・施設整備管理を行っている。

【今後の展望】

栄養指導や心理教育などを継続し、入院中や在宅でも患者自身が健康管理に取り組めるよう支援する。また、摂食障害や高齢者を対象としたハーフ食や嚥下訓練食の導入を検討し、患者の病態・症状にあわせた食種の設定をしていきたい。

文責　小嶋　萌

【実　績】

(1)　提供食事数

延食数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入　院	23,468	24,247	23,229	23,759	23,674	23,013	23,394	20,985	21,321	22,629	21,203	23,140
ﾃﾞｲｹｱ他	914	863	942	918	936	900	910	812	928	775	750	870

(2)　栄養指導件数（入院・外来含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件　数	69	63	73	74	77	63	73	67	71	66	57	59

【部署名】

心理室

【職員数】

5名（臨床心理士5名）

【業務内容】

外来・入院患者を対象に心理検査や心理面接（カウンセリング）、また患者家族を対象とした心理教育や家族相談会を行っている。その他、提携企業へのメンタルヘルス研修や行政と連携して地域での家族会を実施している。

心理検査は質問紙や投影法といった検査用具を用いて、患者の病態把握や病状理解、性格傾向などを把握し、治療の援助や心理面接へのアセスメントとして活用している。

心理面接（カウンセリング）ではアセスメントをもとに精神分析的心理療法や認知行動療法、家族療法など患者の治療に有用な心理療法を用い、その方が困っている生活上の問題を自身でコントロールできるよう支援したり、過去のトラウマや葛藤体験の整理を促し、更なる精神的な発達とよりよい生活への支援を行ったりしている。

患者家族への心理教育については、家族に対する病気や薬への疾病教育と、家族の抱えている困り事や問題を家族同士でそれぞれの体験を活かして話し合うグループワークを一緒にした家族相談会を企画し、他職種スタッフと共に実施している。

その他、地域の企業や行政に出向き、ストレスケアを中心としたメンタルヘルス研修や家族相談会を実施し、地域貢献にも協力している。

【今後の展望】

精神科救急病棟の開設以来、発達障害圏や一過性のストレス性疾患の患者、また認知症の患者も増え、検査やカウンセリングの依頼が多く来年度もこの傾向が続くことが予想される。

私達の職種が公認心理師としての国家資格化され、2018年から試験が行われる。この資格の業務の目的は「国民の心の健康の保持増進に寄与すること」である。患者当事者だけでなく、その関係者及び国民全体が公認心理師の業務の対象となり、当院の基本理念にも通ずるところがある。

国家資格化され、患者一人ひとりに対する治療サービスの責任も一層増すこととなり、個人の臨床スキルの研鑽だけでなく倫理観、人間性といった全人的なレベルアップが大切となってくる。今後とも一層努力をしていきたい。

文 責　中川甚一郎

地域課

【部署名】

地域課

【職員数】

20名（看護師10名　准看護師１名　精神保健福祉士９名）

【業務内容】

- 外来診療補助
- 検査介助
- 問診
- 点滴、注射処置
- 外来予約変更窓口
- 外来患者電話相談対応
- 夜間休日救急対応窓口
- 精神科訪問看護
- 相談および連携業務
- 各種プログラム協力
- 各種調査、アンケート協力
- 外部会議出席
- 共同住居管理
- 実習生受け入れ

【今後の展望】

〈外　来〉

1．病棟との入院時カンファレンスを実施し、連携強化をはかる。

2．未受診者リストを作成し、適宜必要な働きかけが行える体制を継続していく。

3．平成30年度より地域課が機能分化されるが、これまで同様に医療相談室での朝のミーティングに参加し、情報共有と連携を図っていく。

〈精神科訪問看護〉

1．利用者の意向に沿った訪問内容と支援の提供が出来るようにスタッフ全員が質の高い訪問看護サービスを提供できることを目指す。担当訪問看護者を明示し、責任を持って支援に取り組む体制をつくる。退院時（訪問再開時）にも導入チェックリストを用い、支援内容を明確にしていく。

2．訪問看護件数を維持する。事故なく安全に配慮した訪問タイムスケジュール管理を行い、必要な方へ時間の延長の配慮ができる体制づくりを継続する。また利用者の都合に対応できるようスケジュール変更可能体制を継続する。

3．外来、主治医、デイケア、地域関係機関との連携強化と、緊急訪問が効果的に行われる体制を継続していく。

4．訪問看護ケア項目の内容を明確化し、継続した看護が実施できる方法や記載方法を検討する。（退院前訪問から継続したツールやシート、評価尺度を用いることで、地域生活移行後に生じた問題から支援を修正、追加した事項を明確にしていくシステムづくり）

〈医療相談〉

1．入院患者への手厚い対応と業務整理を目的に平成30年３月１日より、全ての病棟においてPSW担当制とした。あわせて外来患者の個別担当制を廃止し、その都度対応者によるワンストップ対応を心掛けている。

2．認知症相談ケースの担当制は継続する。

3．外来、訪問看護とはこれまで通り情報の共有、連携を意識していく。

文 責　深井真奈美

【実　績】

1．訪問看護件数（年次推移）

年度	年間件数（件）	新規利用者（名）	1日平均（名）	備　考
22	2,567	19	12.2	総合支援室　完全3チーム制
23	2,598	17	10.6	
24	2,932	23	11.8	
25	3,176	32	13	
26	2,874	28	11.7	
27	2,510	28	10.2	地域課（外来・クリニック加わる）として開始
28	3,194	36	13.0	
29	2,972	24	12.1	

2．訪問看護（平成29年度実績）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
延べ件数	258	286	303	246	255	245	257	252	236	195	205	234	2,972
稼働日数	20	20	22	20	22	20	21	20	21	19	19	21	245
1日平均	12.9	14.3	13.7	12	11.6	12.2	12.2	12.6	11.2	10.2	10.7	11.1	12.1
新規者数	3	4	5	0	2	1	3	0	1	2	1	4	26
終了者数	1	0	0	1	1	1	0	0	6	0	1	5	16
登録者数	156	160	165	164	165	165	168	168	163	165	165	164	—

3．新規外来患者数（平成29年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	32	27	34	33	36	30	28	34	46	24	22	33	379

前年、同月合計より　−132

4．外来患者数の動向

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
H27年度	1,997 95.1	1,656 92.0	1,895 86.1	1,991 90.5	1,887 89.9	1,923 101.2	1,979 94.2	1,868 98.3	1,934 96.7	1,685 88.7	1,805 90.3	2,057 93.5	22,677
H28年度	1,813 90.7	1,839 96.8	2,080 94.5	2,001 100.1	2,158 98.1	2,022 101.1	2,052 102.6	2,158 107.9	2,059 103.0	1,917 100.9	1,960 98.0	2,268 103.1	24,327
H29年度	2,081 104.1	2,154 107.7	2,177 99	2,123 106.2	2,435 110.7	2,140 107	2,128 101.3	2,196 109.8	2,079 99	1,940 102.1	1,865 98.2	2,077 98.9	25,395 103.7

下段は月の平均人数

前年、同月合計より　＋1068

5．入院患者数の動向

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
H27年度	40	38	34	38	33	37	34	32	39	46	34	39	444
H28年度	41	54	63	43	50	54	53	36	38	53	45	39	569
H29年度	48	36	46	50	36	49	39	37	51	46	41	44	523

前年、同月合計より　−46

6．とよさかクリニック患者数の動向

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
H27年度	522 24.9	475 26.4	527 24.0	559 26.6	488 24.4	553 29.1	543 25.9	495 26.1	528 26.4	491 25.0	490 24.5	587 28.0	6,258
H28年度	532 26.6	491 25.8	523 23.8	515 25.8	546 26.0	534 26.7	479 25.2	532 26.6	519 27.3	473 24.9	477 23.9	545 24.8	6,166
H29年度	515 28.6	496 35.4	484 26.9	473 29.6	523 30.8	492 28.9	500 29.4	494 30.9	491 30.7	451 37.6	410 34.2	461 38.4	5,790

下段は月の平均人数　　前年、同月合計より　－376

7．精神保健福祉士業務実績（救急病棟精神保健福祉士を含む）

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診・受療援助		323	280	241	310	275	250	221	226	269	253	237	284	3,169
経済問題援助		62	42	43	51	58	47	41	42	38	60	43	24	551
背景・要因把握		139	134	152	181	162	117	153	123	183	178	215	115	1,852
治療・療養上の援助		138	162	153	129	159	137	155	118	119	141	168	132	1,711
社会・家庭生活上の援助		136	140	163	161	173	126	129	126	146	131	100	87	1,618
制度利用援助		133	154	177	188	163	172	177	160	126	158	119	123	1,850
退院・社会参加への援助		117	164	176	148	119	120	104	113	106	91	82	115	1,455
アフターケア・訪問看護		210	283	286	238	300	255	254	220	190	181	143	203	2,763
その他		66	45	46	72	59	72	40	42	52	50	171	104	819
援助方法	面接	403	382	414	386	381	334	315	309	280	330	395	362	4,291
	院内調整	132	122	131	176	165	144	154	137	149	170	192	166	1,838
	電話文書	719	768	798	847	859	738	734	621	734	692	646	617	8,773
	院外訪問	90	141	94	69	72	82	72	69	65	51	48	49	902
総数		1,344	1,413	1,437	1,478	1,477	1,298	1,275	1,136	1,228	1,243	1,281	1,194	15,804

各項目は新潟県医療社会事業実績報告の項目を基準として分類

8．精神保健福祉士業務年次推移

（単位：件）

年度（年）	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
延べ件数	6,767	8,650	11,171	16,781	14,934	15,168	13,454	19,386	15,804
月平均	563.9	720.8	930.9	1,118.7	1,244.5	1,264.0	1,121.1	1,615.5	1,317.0

9．共同住居入居者数

（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
金権家（定員13）	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12
吉田家（定員12）	12	12	12	12	12	12	12	10	10	10	10	9

【部署名】
デイケア科

【職員数】
8名（看護師2名　作業療法士2名　精神保健福祉士4名）

【業務内容】
プログラムの提供
集団：ピアサポーター活動、学習講座、就労支援、SST、認知行動療法、スポーツクラブ、園芸、創作、調理実習、音楽活動、文化活動、書道・俳句グループ、記者クラブ、話・憩の広場、メンバーミーティング
個人：パソコン、カラオケ、ビリヤード、卓球、麻雀、将棋、ビーズ手芸、編み物など

デイケアでは様々なリハビリテーションプログラムがあり、生活で困難に感じること、困っていることを軽減し、予防することが出来る。また同じ悩みや困難を抱えている人達の繋がりもできる。 プログラムへの参加は自分で選択するため「主体的に責任をもって生きる」ことをサポートする。

メンバーミーティングではイベント企画の立案やプログラム・設備の要望、苦情などの意見交換を行い、デイケア運営に反映させている。ピアサポーター育成ではデイケア案内・WRAP（元気回復行動プラン）南浜バージョンのファシリテーター、板書・研修会等での当事者発表を行っている。学習講座では身近な病気や医療、社会的なモラル、社会資源など他部署のスタッフや専門職、地域のスタッフと連携し、必要な最新情報をタイムリーに提供している。

また、3ヶ月に1度はメンバーと担当スタッフで面談をし、目標に対しての評価、振り返りを行いながら新たな目標の再設定を行い、デイケアに通う目的の再確認を行っている。

その他、月に1度デイケア科運営委員会において医師や急性期病棟、開放病棟、地域課、心理士などチームで情報交換を行ない、随時当事者のニーズに合わせたサービス提供ができるよう取り組んでいる。

【今後の展望】
就労支援、ピアサポーター、SSTなど目的別や短期利用の参加者も増える様にプログラム内容の強化をしていく。

メンバーが目標を達成し、卒業していけるシステム作りを地域などと連携して開拓していくと共に、居場所的参加のメンバーも目標を持って参加出来る様に支援していく。

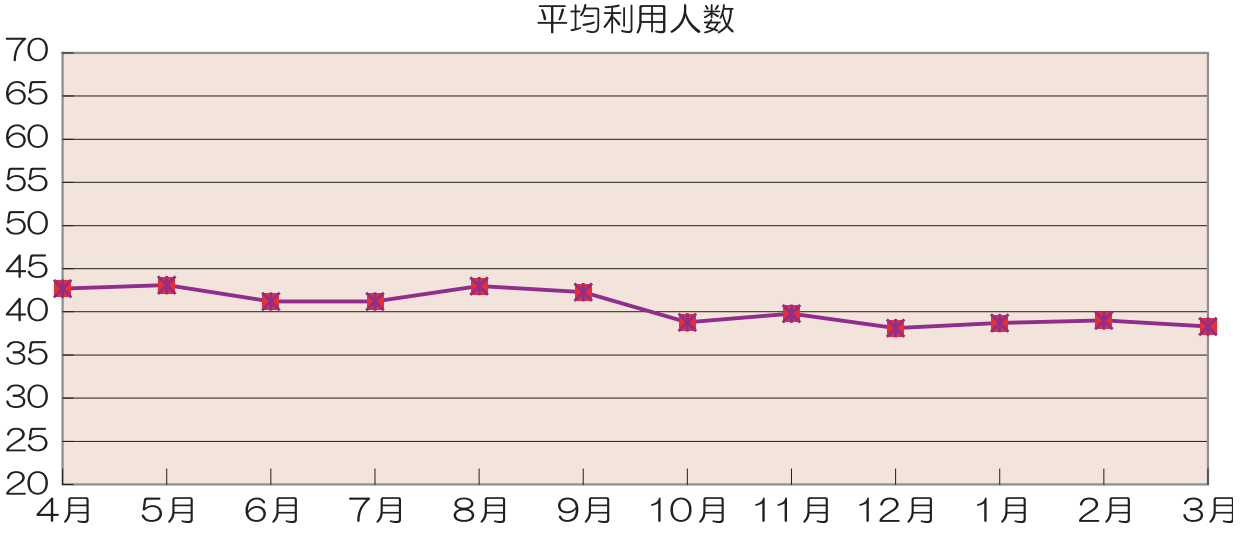
家族相談会の定期開催などメンバーと家族双方への支援ができるようにしていく。また、リスク管理を徹底しメンバーの安全に十分配慮した環境設定の中で、活動が行えるよう配慮する。

全体的に日々の参加者人数を増やす為、病棟へ出向き積極的なPR活動を病棟スタッフとも連携しピア活動の一環として取り組んでいきたい。

文責　川島　浩也

平成29年度デイケアメンバー利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録人数	99	103	102	101	103	103	105	109	112	113	114	104	105.7
延べ利用人数	855	862	908	825	947	847	816	797	802	737	741	806	828.6
内ショートケア人数	143	134	130	106	153	130	100	106	86	112	95	120	117.9
稼働日数	20	20	22	20	22	20	21	20	21	19	19	21	20.4
平均利用人数	42.7	43.1	41.2	41.2	43	42.3	38.8	39.8	83.1	38.7	39.0	38.3	40.5
新規登録	40.5	1	4	0	1	2	2	4	4	3	1	1	1.9



【部署名】

作業療法科

【職員数】

12名（作業療法士11名　作業療法補助員１名）

【業務内容】

精神障がいを発病、または病状が悪化したことにより入院治療が必要となった際に薬物療法と併用して心理社会的治療法の一環として精神科作業療法（以下；OT）を行う。

薬物療法で急性期症状が軽減した頃に、集団での人間関係の中で実際の手工芸やレクリエーションなどを媒介としてトレーニングを行い持久力・体力・集中力・忍耐力を高め、自発性から協調性そして社会性を再び取り戻していくことで社会性や生活機能を取り戻すリハビリテーションプログラムを行っている。また、通院者を対象にした外来OTでは外出のきっかけとしての居場所の提供や自己啓発の場としている。

当院でOTが開始されて20年目を迎えたが、平成29年度は大きな改編として全病棟に作業療法士の完全担当制を導入したことがある。各病棟で担当する職員が２名と少なくなったことでプログラム内容の見直しが必要となったものの１日１回だった当該病棟でのOTを午前・午後で２回実施し１回の集団人数を少なく調整することで、患者との関わりを深めることができたり、身体的なリハビリテーションに迅速に対応できたり、集団が苦手な患者と個別な関わりを持てたりとメリットが遥かに大きいと感じている。

【今後の展望】

病院全体としてチーム医療を推し進めている中で、より向上させる目的で完全病棟担当制を導入した。そのことで作業療法士の病棟での役割を増やし現在病棟単独で行っている心理社会的治療法（心理教育・回想法・DBT・SST・マインドフルネスなど）にも積極的に関わっていく。

作業療法科の基本方針として「安全で楽しく」を継続し、常にリスクの可能性を考え予測義務・回避義務を果たしながらも自分自身が楽しく自主的に参加しつつ効果が実感できるようなプログラムを常に見直し実践していく。

今まで集団OTに参加できないことで関係性を持ちにくかった患者にも完全病棟担当制となった利点を生かし、個別対応として積極的に関わっていく。

文責　細野　政昭

【実　績】

◇OT参加者の経年推移

※平成11年5月開設以来、20年目を迎えOTの年間参加者が増加している

◇月単位の参加者数

〈単位：人〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	3,341	3,325	3,566	3,419	3,741	3,307	3,398	3,223	3,413	2,489	2,421	3,445	39,088

◇病棟単位・外来OTでの参加者数

〈単位：人〉

病　　棟	精神科救急病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	外来OT	合　　計
実　　数	4,437	8,573	8,634	10,039	7,149	256	39,088

◇平成29年度　外来OT参加者数

〈単位：人〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	18	26	27	20	24	15	35	21	18	17	19	16	256

◇身体拘束者に対する深部静脈血栓症予防プログラム提供数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	8	6	0	9	4	5	4	5	2	4	7	7	61